

原発など10施設浸水の危険

規制委に報告 柏崎、もんじゅ

東京電力柏崎刈羽原発1〜7号機(新潟県)など10の原子力施設で安全上重要な機器

結果が、同日の規制委の定例会合で報告されました。

力研究開発機構高速増殖炉「もんじゅ」(同)、同東海再処理施設(茨城県)、日本原燃六ヶ所再処理施設(青森県)。

8日までに実施計画の報告を求めています。志賀原発2号機では昨年9月、大雨で原子炉建屋に雨水が約6・5ト流入。照明機器の電源盤がショートしました。今回の調査では、地下貫通部以外は、地表からの高さまでの貫通部を確認する

がされている貫通部があり、外部から浸水する危険のあることが8日、分かりました。北陸電力志賀原発2号機(石川県)の原子炉建屋に雨水が流入し非常用電源がショートした問題を受け、原子力規制委員会が電力会社などに指示した調査の

指摘されたのは柏崎刈羽原発のほか、東北電力女川原発2号機(宮城県)、東電福島第2原発1〜4号機(福島県)、中部電力浜岡原発3〜5号機(静岡県)、北陸電力志賀原発1、2号機(石川県)、中国電力島根原発1、2号機(島根県)、日本原子力発電敦賀原発1号機(福井県)、日本原子

力研究開発機構高速増殖炉「もんじゅ」(同)、同東海再処理施設(茨城県)、日本原燃六ヶ所再処理施設(青森県)。うち福島第2と志賀、東海再処理の3施設は止水以外に、排水ポンプなどの浸水防止手段も取られていない貫通部がありました。

規制委は同日、これらの事業者に対し、貫通部の止水措置を速やかに実施するよう指示しました。また、3月の範囲を確認した原発

もありませんが、関西電力美浜原発では、地上から6号までが確認の範囲です。再稼働した九州電力川内原発(鹿児島県)などは、措置が終わっているとして、今回の調査対象になっていません。